

視聴覚教育

NO. 444

発行日

30.10.1

編集・発行

岡崎市AVL

編集協力

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる！？ フォトハラスメント

勝手に写真を撮られたり、他の人と一緒に撮った写真が無断でSNSにアップされたりする迷惑行為。詐欺サイトなどで勝手に使われることもあり、損害賠償や名誉棄損での刑事告訴される可能性もある。氏名や場所の特定をされ、二次被害が広がることも多い。

Ⅱ 視聴覚教育あれこれⅡ

● 平成30年度岡崎市教育研究大会

本年度の岡崎市教育研究大会は、台風の影響で残念ながら中止された。提出されたリポートは十二点だった。内容を分類し、リポートを紹介する。

① プログラミング的思考の育成を目指した実践

男川小 杉浦 正明 先生
愛宕小 高瀬 玲子 先生

② 情報社会をよりよく生きる

心の育成を目指した実践
矢作北小 藤渕 俊旭 先生

矢作中 長谷川 誉幸 先生
六ツ美北中 酒井 雄一 先生
北中 太田 尚志 先生

③ 各教科・領域で効果的な

ICT利用を追究した実践
生平小 石谷 遼一 先生
六ツ美北部小 杉山 康子 先生

竜海中 鈴木 一史 先生
矢作中 水野 利明 先生
竜南中 中山美奈子 先生

額田中 鈴木 広樹 先生

なお、「父母と教師の教育を語る会（県教研）」には、次の二名が推薦された。

● 竜南中学校 中山美奈子 先生
「タブレット端末を活用し、

生徒が主体的・対話的に学び合う授業」
〔中学3年 音楽科鑑賞

〕組曲「展覧会の絵」から〕の実践を通して
● 北中学校 太田 尚志 先生

「自分と似たような生徒を対象に取材し、
生徒の客観的思考力と自己肯定感を育てる」

〔中学3年 映像作品
〕「僕がきみにできること」の制作を通して

新たな時代に向けた学びの変革

現職研修委員会学習情報部長 森

竜師

今年も、iPhoneのニューモデルが発売された。メディアへの発表日には、各国で多くの人々が、どのような機能が加わったか報道に興味を示した。日進月歩の技術革新を、世界中の人々が心待ちにする姿が、そこにはあった。

本年6月、政府は「第3期教育振興基本計画」を閣議決定した。これは、この先5年間の日本の教育において、その理念を実現するための計画書と言えるものである。その中で「教育は未来への先行投資である」という考えのもと、教育政策推進のための基盤整備が方針の一つとして掲げられている。具体的には「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けたICT活用の推進や、それを実現するための基盤となる学校のICT環境整備などが、施策内容として示されている。子供たちが生きる近未来は、AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクスといった先端技術が日常で活用される社会である。教育の情報化推進は、子供たちのために、避けては通れない大きな課題である。

岡崎市ではこの夏、各小学校にiPadを導入した。2学期になり、子供も教師も期待に胸を膨らませて、この新しい機器を使った授業に取り組んでいる。各教科別に様々なアプリケーションソフトがインストールされており、それらを使った授業により、子供たちは個々のペースに合わせて、学習を進めることができる。また、授業支援ソフトを使えば、子供たちの学習の様子や学級内で瞬時に共有できる。仲間と自分の考えを比較する活動などを通して、対話的な学習を活性化させることも可能だろう。このように、導入されたiPadを授業で活用することは、一人一人の能力や適性に応じた学びや、仲間と協力して新たな知を見出すような学びを創造するための、一助となり得るだろう。

iPadを手元に授業に向かう子供たちの表情は、笑顔に満ちている。新しい技術に対して期待や憧れの思いを抱くのは、大人も子供も同じである。これからの社会を生きる子供たちには、こうした先端技術を、自らの能力を補助、拡張し、可能性を広げるための道具として活用する力が求められる。そのための環境整備や授業研究を進めるのは、我々教員の責務と言えよう。

実践報告Ⅱ

タブレット端末で論理的に考察できる授業

常磐中学校 加藤 崇夫

数学で、生徒が苦手な学習内容として「図形」がある。二年生で学ぶ多角形の角の性質の理解が難しく、困惑する様子をよく見かける。そこで、子供たちが互いに考えを伝え合う活動を取り入れ、論理的に考察する力を伸ばしたいと考えた。そのため、支援としてタブレット端末を使い、図形に自由に線を引いて説明できるようにした。

まず星型の図を提示し、先端の角の和について考える時間を取った。補助線が有効であったことを思い出させたが、プリント上にたくさん線を引くうちに混乱し、手が止まってしまふ姿が多かった。

そこで、タブレット端末を渡し、班で考えさせた。直線を引く機能があるので図の乱れが少なく、何度も補助線を書き直せる。また、自然と対話的な活動になり、既習事項を活用しながら、積極的に考えられるようになった。ポイントとなる語句も何度も書き直すことができるので、説明がはかどり、数学が苦手な生徒も、図形の性質を対話的に学んだ。

「図形に書き込んだことで図形の中に隠れている性質が分かった」「班の子がタブレットを使いながら説明してくれたので分かった。平行線を見つけたら、等しい角が出てくる」と手応え十分であった。

タブレット端末は、生徒同士が関わって考えを深めるための、大切な補助ツールとなっている。



レッツ・トライ！ICTⅡ

今回紹介するICTアプリ「Musyc（ミュージック）」

いよいよ全小中学校にiPadが導入となり、ICT環境がさらに充実した。音楽科で、「ガレージバンド」や「カオシレータ」を用いたことがあるが、今年度、特別支援学級を担当するにあたり、敷居が低く、より直感的に音楽に親しむアプリは無いものかと、探してみた。

Musyc（ミュージック）というアプリがある。丸や四角、直線といった図形を任意に選び、画面に任意に配置していく。すると、重力に引かれるように図形が動き、図形同士がぶつかって音が出る。図形を置く場所やタイミングによって偶発的にメロディとリズムが生まれ、自由な音楽づくりを楽しめる。

このアプリでは、図形を配置するだけの直感的な操作が可能である。楽器が不得意で音楽が嫌いな児童でも、夢中になって活動に取り組んでいた。今後は、出来上がった作品をプロジェクトで壁面に投影し「プロジェクトマップ」に入り込んだ児童が、図形をタッチして音楽を楽しむといったことをイメージしている。音楽に親しむための新しい入り口として、期待できるのではないだろうか。



（井田小 学習情報主任 鶴巻 司）

ライブビューだより

●液晶ディスプレイ（スタンド付）紹介

視聴覚ライブラリーで貸出されていた40インチディスプレイとスタンドの機種更新を今年度行い、より使いやすくなりました。



ディスプレイは55インチに大きくなり、画面表示が精細になったほか、USBメモリを使った動画再生やHDMI接続が可能になりました。スタンドは上下昇降機能が手動から電動に変わり、取扱が簡易になっています。

授業での動画視聴や成果発表などにご利用ください。予約システムから予約が可能です。

●第16回「ふるさと岡崎

メディアコンクール」の御案内

ビデオ教材等の自主制作を振興するために、今年度も「ふるさと岡崎メディアコンクール」を開催します。子供たちの作品や先生方の自作教材など、ふるってご応募ください。

・募集期間

平成30年11月1日（木）～12月3日（月）

※巡回郵便や持参、郵送で受付。最終日消印有効。

・応募先 岡崎市視聴覚ライブラリー

〒441-8601 岡崎市菅生町1-3-1

・テーマ 自由（生涯学習、学校教育に適した素材・内容で、応募者の自作であること）

※募集要項や応募用紙は視聴覚ライブラリーのHP（<http://www.oavl.jp/>）に順次掲載します。